

普及活動情勢報告（平成 26 年 4 月分）

安芸農業振興センター

情勢報告

産地全体の振興に向けて～中芸地区大規模巡回～



えい事を始めたねえ～

JA 土佐あきと振興センターは、芸西地区（115 戸訪問）と安芸地区（約 100 戸訪問）に引き続き、4 月 2 日に中芸地区の生産者に対して大規模巡回を行った。

今回は 93 戸訪問し振興センターからは、ナスの新病害「フザリウム立枯病等」の防除対策を情報提供すると共に、現状の問題点などの聞き取りを行った。生産者からは「また来て教えて欲しい」など、定期的な巡回を求める声が多かった。

今後も振興センターは、多くの生産者に情報提供や指導を一斉に行う機会を設ける。

うちはこんな管理しゅうで！～土佐あき新施設園芸システム勉強会～



生産者同士の情報交換

4 月 4 日、土佐あき新施設園芸システム勉強会を開催し、生産者 21 名が参加した。

振興センターからは最新の水分管理やオランダ情報満載の「先進技術セミナー」の報告を行った。先進地の技術力の高さに参加者から関心が集まった。生産者代表(4 名)による事例発表では、様々なハウス内環境データの測定やその改善への取り組みと、増収効果が紹介された。他の生産者からも意見や質問が多く寄せられ、環境制御技術の確立に向けて有意義な勉強会となった。

振興センターでは、今後も定期的な勉強会の開催を支援する。

WCS(稲発酵粗飼料)用水稲栽培の取り組み増加！ ～WCS 巡回説明会～



栽培予定の田んぼのそばで説明会

4 月 8 日、北川村くぶついで WCS 用水稲栽培に興味のある 3 名を対象に説明会を行った。

振興センターから、WCS 用水稲とは何かから始まり、長所、短所を挙げて栽培上の留意点等や国の米政策の制度について説明した。

3 名とも WCS 用水稲栽培は始めてであり、戸惑いも見られたが、何より労力の少ない点や米の収量・品質が関係ないこと等に魅力を感じたようだった。その結果、26 年度は食用米品種で取り組むことが決定された。

今後、振興センターでは、5 月の移植時に現地検討会を開催し、WCS 用水稲栽培への取り組みを支援する。

毎月全員参加！ユリ現地検討会 ～JA 土佐あき花卉部球根部会～



部会員間の情報交換

4月8日、JA 土佐あき花卉部球根部会は現地検討会を開催し、部会員10名全員が参加した。

「これは新品種？作りやすい？」「蕾の向きが変なのは高温？水不足？」等、栽培上の疑問点等を出し合い、問題解決に向け情報交換した。振興センターからは、ヒートポンプ利用の夜冷栽培方法やヒートポンプ導入事業の説明を行い全員が追加か新規導入の意思を示した。

今後、振興センターでは、毎月自主的に行っている現地検討会に新しい技術やタイムリーな話題等を提供し、部会活動を支援する。

室戸市吉良川で児童らが田植え体験



こどもたちによる田植え

4月11日、室戸市吉良川で吉良川小学校など地域の児童・園児ら18名と農家、JA、振興センターが参加して田植え体験が行われた。

振興センターは農家やJAと協力して、児童らに苗の植え方を教えながら一緒に田植えした。

児童らは用意されたモチ米の苗を一株一株丁寧に移植し、農作業の苦労とありがたさを体験した。8月には収穫作業も行い、収穫したモチ米は東日本大震災で被災した小学校に送られる。

今後、振興センターでは、8月の稲刈りなど食育活動を支援する。

選ばれる産地を目指して～芸西ピーマン部会現地検討会・勉強会～



これからが本番！

4月17日に芸西ピーマン部会は現地検討会と勉強会を開催し、部員20人が参加した。

振興センターからは同部会を対象とした普及計画課題「ピーマンの産地力強化～選ばれる産地を目指して～」を周知した。

部員からは省エネ・低コストのためのリース事業導入、新しい天敵を組み合わせたIPM技術の高度化、新しい選果機を活用した有利販売等の話題が出て、活発に議論が交わされた。

振興センターは、CO₂施用等環境制御技術の普及、IPM技術の改良、特別栽培農産物の定着、消費拡大活動等を支援する。

ウコンの定植～奈半利町 大原・西ノ平生産組合～



協力してウコンを定植

4月22日、集落営農組織『大原・西ノ平生産組合』の9名が参加してウコンを定植した。25年度からウコンの栽培に取り組んでおり、26年度は堆肥投入による土作りやマルチ被覆による雑草対策を実施し、増収を目指している。組合長からは、「今回も多くの組合員が参加してくれた」また、組合員からは「次は除草と追肥を遅れないようにしたい」との意欲的な声が聞かれた。

今後も振興センターでは、巡回等により生育状況を確認し、同組織がウコンの栽培から販売までできるよう支援する。